

卒業式祝辞

同窓会長の佐藤です。私は昭和三十六年度、第十四回の卒業です。

令和五年度卒業式に当たり、一言お祝いを申し上げます。卒業生の皆さん、ご卒業誠におめでとうございます。三カ年あるいは四カ年の努力が実を結んで、晴れて本日を迎えられました。皆さんの喜びはもとより、これまで陰に陽に支えて下さったご家族の方々、校長先生を初め教職員の皆様のお喜びは如何ばかりかと、ご同慶の至りであります。皆さんの在学した年月は、新型コロナウイルスの最中にあり、学校行事や部活動の変更や中止など、不自由を余儀なくされました。そんな中、文武両道を目指し頑張った皆さんの姿は、私たち同窓生にとっても誇りであります。

さて、昨日二月二十九日に、同窓会入会式が行われ、二百八名の新会員をお迎えしました。卒業生は総勢二万六千八百七十三名に達しました。本校は県内屈指の伝統校であり、明治三十三年の創立以来、百二十四年に渡って多くの人材を世に送って参りました。株式会社巴コーポレーション創業者であり、公益財団法人野澤一郎育英会の創設者である野澤一郎先輩もその中のお一人であります。野澤先輩の人となりについては、去る二月十五日の下野新聞で紹介されておりますが、生前「百鍊の鐵」という言葉を座右の銘としておられました。「鍛えに鍛え抜かれた鉄で作られた刀剣は、兜をも断ち割る」という意味で、その信念のもとに数々の業績をのこし社会貢献に尽力されました。母校愛も一入で、昭和二十九年の校庭拡張の折に、撤去予定であった大櫓を、多大な私財を投じて校庭南に移植されました。以来真岡高校のシンボルツリーとなっております。卒業生の皆さんにおかれましては、これからもよりいっそう自己研鑽に努め、この先輩のように社会の役に立つ有為な人となるよう願っております。

皆さんは本日をもって、真岡高校の学舎を離れ、新たな世界へと羽ばたきます。本校教育の指標である「至誠」の心、「人を欺かず、また己を欺かず、自己の良心を尊ぶ」気構えをもって、たくましく雄々しく未来を切り開いて下さい。私たち同窓会も引き続き皆さんの活躍を応援して参ります。

結びに、卒業生の皆さんの洋々たる前途とご多幸、併せて母校真岡高校の益々の発展を祈念して、祝辞とします。

令和六年三月一日

栃木県立真岡高等学校同窓会長

佐藤 務